

学校だより 第13号



心豊かで 確かな学力をもち 心身ともに健やかな子どもの育成

令和5年10月16日 津市立榊原小学校

令和5年度「全国学力・学習状況調査」と「第1回みえスタディ・チェック」の結果について

4月18日(火)に、6年生が「全国学力・学習状況調査」を、4月25日(火)に、4年生と5年生がタブレットを使って「第1回みえスタディ・チェック」を実施しました。

国や県から各学年の採点・集計結果等が発表されましたので、本校児童との比較や各教科等の分析結果をお知らせします。正答率の比較は、本校の「強み(良いところ)」と「弱み(課題があるところ)」の把握のための参考にし、「強み」と考えられる部分は実践を継続し、「弱み」と考えられる部分の力を伸ばすよう取り組みます。本校は児童数が少ないため、個別の「強み」や「弱み」を掌握し指導に生かすことに、より重点を置きます。なお、これらの調査から読み取れることは、子どもたちの学力や生活の一部であり、学校の教育活動の一側面です。保護者のみなさまには、お子様の得意なことや努力を認めながら、今後の学習や生活の励みとなるようなお声かけ、読書習慣・生活習慣の改善へのご協力をお願いします。

4・5年生 みえスタディ・チェック

国語：4年生は三重県の平均(60.1%)を17%以上、5年生は県平均(51.9%)を5%以上上回っています。

算数：4年生は三重県の平均(58.6%)を37%以上、5年生は県平均(57.4%)を17%以上上回っています。

理科：5年生は三重県の平均(51.4%)を18%以上上回っています。(4年生は実施していません。)

《本校の強み(良いところ)》

国語：「話すこと・聞くこと」の内容で、話し合いをもとにした報告資料の作成の問題で、正答率が高かったです。常体の文を敬体に直す問題もよくできています。

算数：どの領域も正答率が高く、時間や概数、分数の理解など、県平均正答率が低い問題もよくできています。

理科：注射器の中の水や空気を圧した場合の問題や、昆虫の体・育ち方と食べ物の問題などすべての領域で県平均正答率を上回りよく理解しています。

《本校の弱み(課題があるところ)》

国語：同音異義の漢字の書き違いや、手紙の後付けに必要な日付や署名や宛名の位置についての問題に課題が見られました。

算数：180度より大きい角の読み取りや、表やグラフの言葉や目盛に着目して記述して説明する問題はやや正答率が低かったです。

理科：方位磁針の操作方法の問題や、乾電池のつなぎ方によるモーターの速さの違いの問題に課題があります。



6年生 全国学力・学習状況調査

国語：全国の平均(67.2%)を約7%以上上回っています。

算数：全国の平均(62.5%)を約7%以上上回っています。

《本校の強み(良いところ)》

国語：中心となる語や文を見つけて要約する問題や、聞き手や話し手の話題の中心を捉える問題の正答率が高かったです。

算数：「数と計算」の領域の問題や、台形や正方形の性質についての問題、「データの活用」で、複数のグラフを読み取り、見出した違いを条件に合わせて記述する問題は正答率が高かったです。

《本校の弱み(課題があるところ)》

国語：敬語の使い方や、資料の情報と情報の関係について適切なものを選択する問題の正答率が低かったです。

算数：基準量と比較量から30%の割合のものを選ぶ問題や、三角形の角や面積について、応用的な問われ方をした問題は、全国平均回答率も低く、本校も同様に弱さが見られました。

《6年生6人が4/18(月)に回答した児童質問紙の結果(抜粋)》

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」等、良い傾向の合計の全国の平均回答率との比較

◎良い傾向 ○同じくらい △課題がある傾向 ☉は100%

自分には良いところがありますか	○
将来の夢や目標を持っていますか	○
人が困っているときは、進んで助けていますか	△
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	☉
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか	◎
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか	◎
読書は好きですか	☉
今住んでいる地域の行事に参加していますか	☉
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	☉
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	△
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	△

【考察と今後の取組】

学習面では、基礎基本の力の定着に向けた取組を継続させ、家庭学習とも連動させながら、タブレットも活用し、自分に合った学習方法を見つけ、主体的に取り組めるような授業づくりを目指します。また、課題のあった問題や領域等については、復習や関連プリント等で力をつけてまいります。



読書は、語彙を豊かにし、世界を広げ、想像力を育み、人生を豊かにする活動の一つです。生きる力としての学力と読書の相関関係も、統計結果から明らかになっています。特に、ふだん少人数での授業のため、多様な考えや価値観に触れる機会が少ない本校児童にとって、読書の習慣は大変重要であるとの認識のもと、読書習慣の確立に向けて、昨年から学校で取組を進めていた成果が見られたと感じます。



児童質問紙に見られる、「いじめを許さない人権意識」が育っていることは、これまでのなかまづくりや、縦割り活動等の異学年交流、児童会活動の取組の成果ととらえ、継続してまいります。また、「地域貢献に対する意識の高さ」は、保護者・地域の皆様が学校と連携・協働して子どもたちの成長を支えていただいている結果ととらえています。

気になる課題については、4月に把握した時点から、改善に向けて全職員で取り組んでいます。学校生活がさらに楽しく、充実したものとなるように、授業や行事等すべての教育活動を通して、成功体験を味わわせ、自己肯定感を高めるとともに、互いを認め合い、安心してチャレンジできるクラスを子どもたち自身でつくっていけるよう支援してまいります。